

## 戸田建設株式会社グリーンボンド（2017年及び2018年）

**契約の種類：** アニュアルレビュー

**日付：** 2019年11月19日

**担当者：**

Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

### はじめに

戸田建設株式会社（以下、「戸田建設」）は、長崎県五島市崎山沖に設置する浮体式洋上風力発電施設建設のための資金調達を目的として、2017年12月と2018年12月にそれぞれグリーンボンドを発行しました。2019年11月、戸田建設はサステナリティクスとの間で、発行済みグリーンボンドによる調達資金を充当した支出のレビュー、また当該支出が戸田建設グリーンボンドフレームワーク 2017<sup>1</sup>及び戸田建設グリーンボンドフレームワーク 2018<sup>2</sup>（以下、「グリーンボンドフレームワーク」）で規定された、調達資金の用途のクライテリア及びレポートニングに関する基準を満たしているか評価を行う契約を締結しました。本レビューは、サステナリティクスによる戸田建設の2017年発行のグリーンボンドに対する2回目のレビューとなり、2018年に行ったレビューに続くものです。2018年発行のグリーンボンドに対しては、初回のレビューとなります。

### 評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2018年と2019年に資金提供を受けたプロジェクト（長崎県五島市崎山沖に設置する浮体式洋上風力発電施設建設）を評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークに規定された調達資金の用途及び適格クライテリアへの適合
2. グリーンボンドフレームワークに規定された各調達資金用途クライテリアに対する主要業績評価指標（KPI）の報告

戸田建設グリーンボンドフレームワークは、2017年に一回目のグリーンボンド発行のため策定され、2018年に二回目のグリーンボンド発行のため更新されました。戸田建設は、当該フレームワークにおいて、以下の資金用途、適格クライテリア及びKPIへの取組みを約束しています。（表1は調達資金の用途、適格クライテリア、また関連するKPIのリストです。）

**表1：調達資金の用途、適格クライテリア及びKPI**

調達資金の用途	適格クライテリア	主要業績評価指標
再生可能エネルギー（洋上風力発電）	<ul style="list-style-type: none"> <li>五島市沖洋上風力発電事業（長崎県五島市崎山沖）における浮体式洋上風力発電施設の建設に関連する支出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設された風力発電機の数及び風力発電機の出力</li> <li>適格プロジェクトによるカーボンオフセット量（入手可能データによる）</li> </ul>

<sup>1</sup> 2017年発行のグリーンボンドは、戸田建設グリーンボンドフレームワーク 2017に基づいて発行され、同フレームワークは以下より閲覧可能です。  
[https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2017/10/Toda-Corporation\\_Green-Bond-Framework-and-Opinion\\_Japanese\\_final.pdf](https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2017/10/Toda-Corporation_Green-Bond-Framework-and-Opinion_Japanese_final.pdf)

<sup>2</sup> 2018年発行のグリーンボンドは、戸田建設グリーンボンドフレームワーク 2018に基づいて発行され、同フレームワークは以下より閲覧可能です。  
[https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2017/10/Toda-Corporation\\_Green-Bond-Framework-and-Opinion\\_Japanese\\_final.pdf](https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2017/10/Toda-Corporation_Green-Bond-Framework-and-Opinion_Japanese_final.pdf)

## 発行体の責任

戸田建設は、支出の説明、推定費用と実際の費用、支出が環境に及ぼす影響を含め、資金提供を受けた支出の詳細に関連する正確な情報及び書類を提出する責任を負います。

## 独立性と品質管理

投資家に ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本契約の一環として行った作業では、同社のグリーンボンドフレームワークと合致しているか検討するために、戸田建設の従業員からの文書の収集及び検証を行いました。

サステナリティクスは調査にあたって、対象支出に関して、戸田建設から提示された情報及び事実に依拠しています。戸田建設が不正確もしくは不完全なデータを提示したことにより、本文書に記した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

## 結論

2018 年 3 月、戸田建設は洋上風力発電施設の機材等の調達に着手しました。施設が建設されていないため、同社がプロジェクトの KPI を測定することができない状態であり、本レビューの時点では公開可能な環境改善効果が存在しません。また、守秘義務契約に基づき、戸田建設は 2017 年および 2018 年のグリーンボンドの調達資金に係るこれまでの充当状況の詳細をサステナリティクスと共有しました。サステナリティクスは、調達資金を審査し、充当された調達資金はプロジェクトに関連する風力発電機、浮体、送電網その他を含めた風力発電施設に支出されていることを確認しました。

以上、限定保証プロセスに基づき検討したところ、<sup>3</sup>すべての関連資料において、戸田建設グリーンボンドによる調達資金を充当した調査対象の支出が、グリーンボンドフレームワークで述べられた調達資金の用途及びレポーティングの基準に合致していないと確信させるものは一切ありませんでした。

<sup>3</sup> サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2018 年及び 2019 年にグリーンボンドによる調達資金を充当された支出を対象に、グリーンボンドフレームワーク及び上の表 1 に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	2017 年および 2018 年発行の両グリーンボンドを通し充当されたすべての支出は資金使途クライテリアに適合していました。	なし
レポーティングクライテリア	2018 年及び 2019 年にグリーンボンドによる調達資金を充当された支出を対象に、同支出によるインパクトがグリーンボンドフレームワーク及び上の表 1 に示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。	2017 年および 2018 年発行の両グリーンボンドを通し充当された五島市沖洋上風力発電事業は建設中につき、KPI は報告されていません。	例外 (五島市沖洋上風力発電事業は建設中につき、現時点で報告可能な KPI はありません。)

## 免責事項

© Sustainalytics 2019 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に記載された情報の知的財産権は、独占的にサステナリティクスに帰属します。サステナリティクスの書面による明示的な同意がない限り、本成果物のいかなる部分も、電子的、機械的、写真複製、録音等の形態・方法を問わず、複製し、流通させ、他の情報と組み合わせ、二次的著作物の作成に使用し、その方法にかかわらず提供し、第三者の閲覧に供し、または公開することはできません。

本書の情報は、現状有姿にて発行体から提供された情報に基づいたものであり、したがってサステナリティクスは、本成果物に記載された情報の完全性、正確性、適時性について保証するものではなく、誤謬や欠落について何ら責任を負わず、また本成果物の内容や、本成果物およびそこに記載された情報の利用によって生じた損害について、いかなる形の賠償責任も認めることはありません。第三者への言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援または推奨を意味するものではありません。

本成果物に記載されたいかなる内容も、明示または黙示を問わず、企業への投資、プロジェクトの選択、または何らかの種類の商取引の実施の適否に関するサステナリティクスの表明または保証と解釈されるべきではありません。また（該当する司法管轄区域において定義された）「投資助言」として、または発行体の財務業績、金融債務、もしくは信用力の評価として解釈されるべきではありません。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行、および監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版の間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先するものとします。

## サステイナリティクスについて

サステイナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステイナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESG に関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30 か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステイナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。サステイナリティクスは 2015 年に、Global Capital 社により「最も優れた SRI・グリーンボンドリサーチ・格付企業」に選出され、2018 年と 2019 年には「もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018 年には、Climate Bonds Initiative 及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定され、2019 年には Climate Bonds Initiative により「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれました。また、サステイナリティクスは 2018 年に一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞し、2019 年にはジャパン・グリーンボンド・アワードのジャパン・グリーンコントリビューター部門で環境大臣賞を受賞しております。

詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照、又は

[info@sustainalytics.com](mailto:info@sustainalytics.com) にご連絡下さい。

